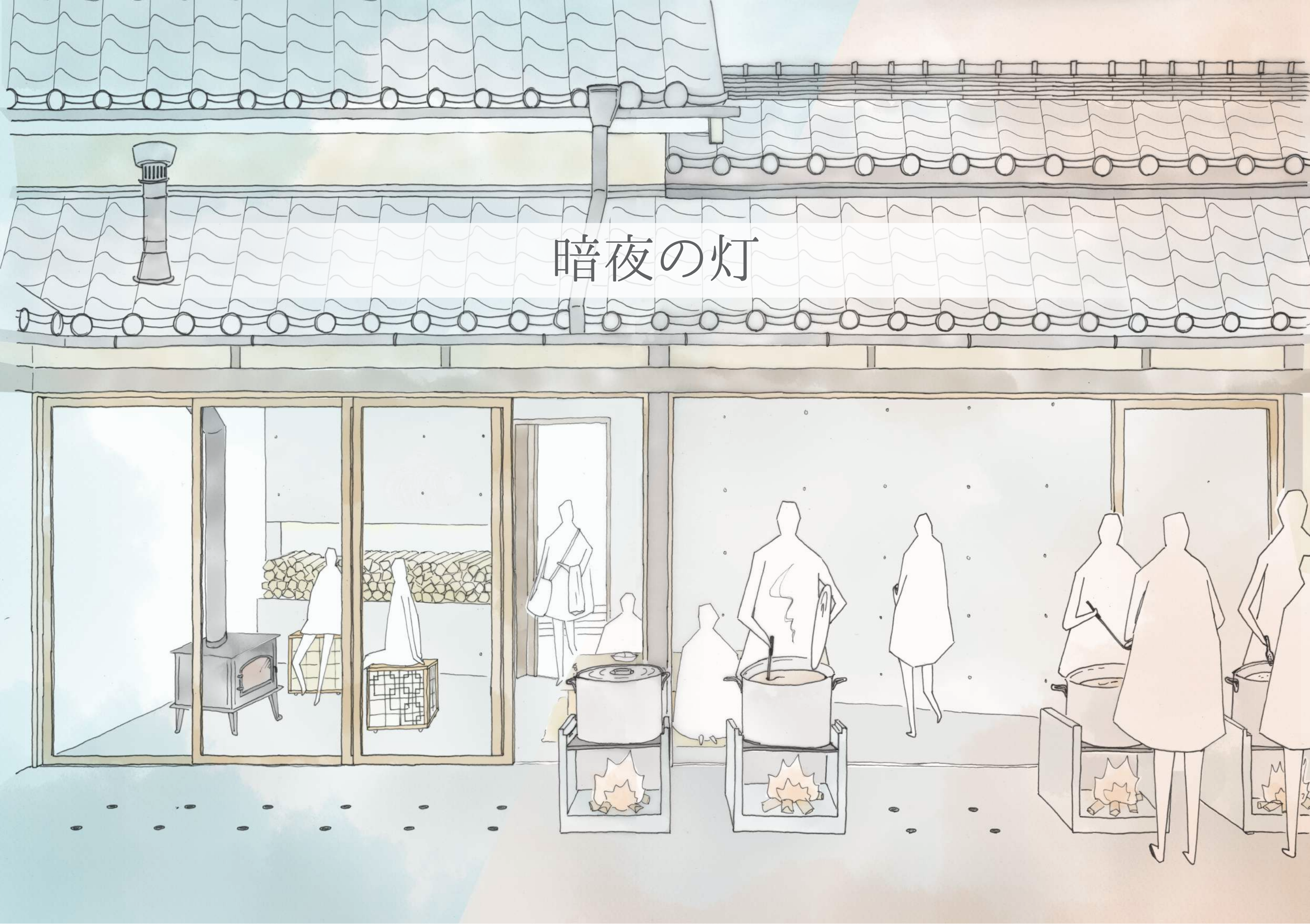


暗夜の灯



対象とする空間は建物北側の「交流スペース」である。

この空間は地域の人が集まる場所であるとともに、銭湯へ行く人の入り口にもなる。

さらに災害時には人々が集まって、広い軒下空間で炊き出しや情報交換、憩いの場へと変化する。

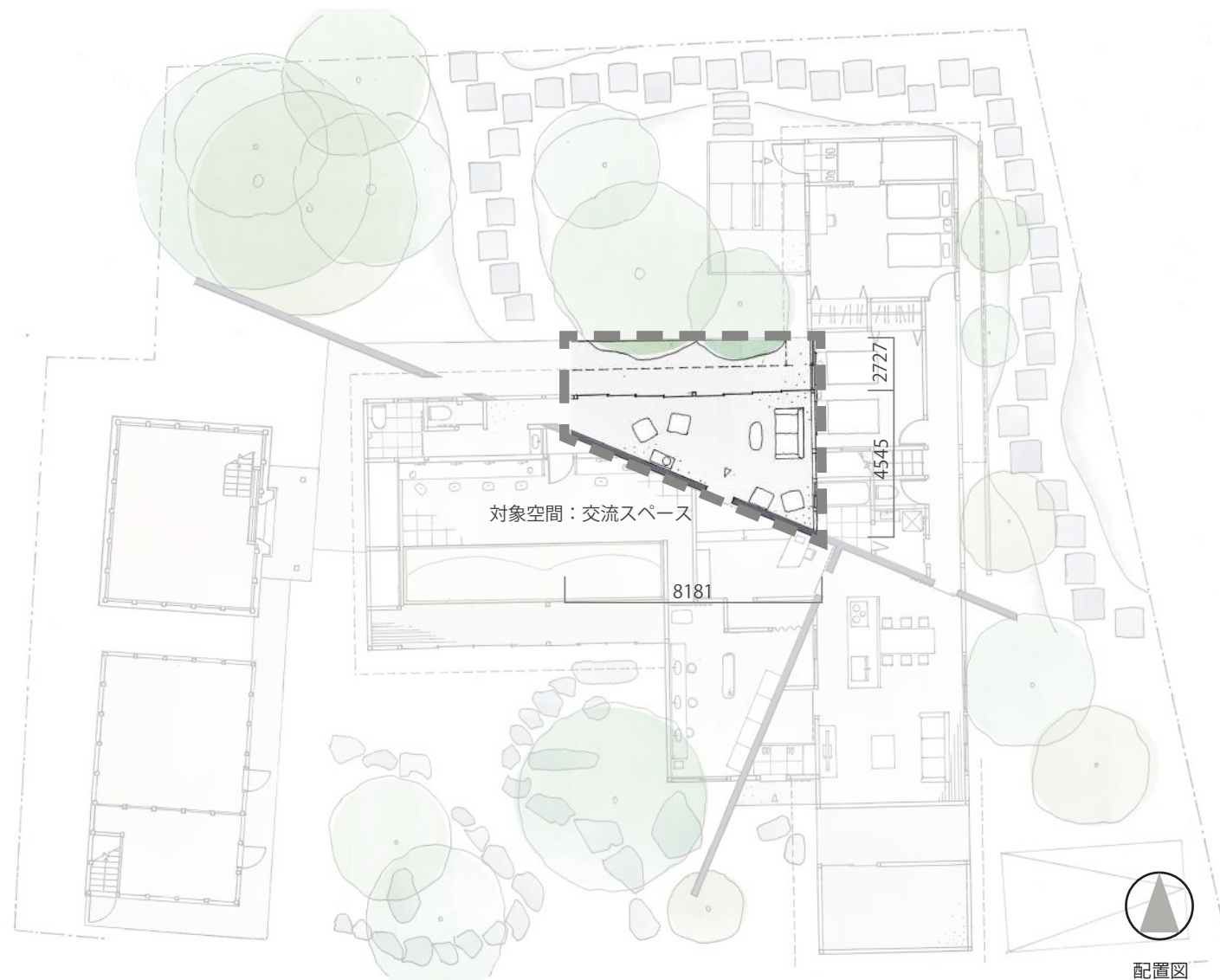
そこで状況に合わせて災害時と平常時の2面性を持った空間を提案する。

また、建物の特徴である RC 壁と対比関係を持たせる。



2面性を持つ

材料・デザインの対比



コンセプト

下図のような「はこ」、「いた」、「もとい」の3つのパーツを作る。

これらを平常時と災害時の状況に合わせて組み合わせることによって違う用途のものへと変化する。

平常時

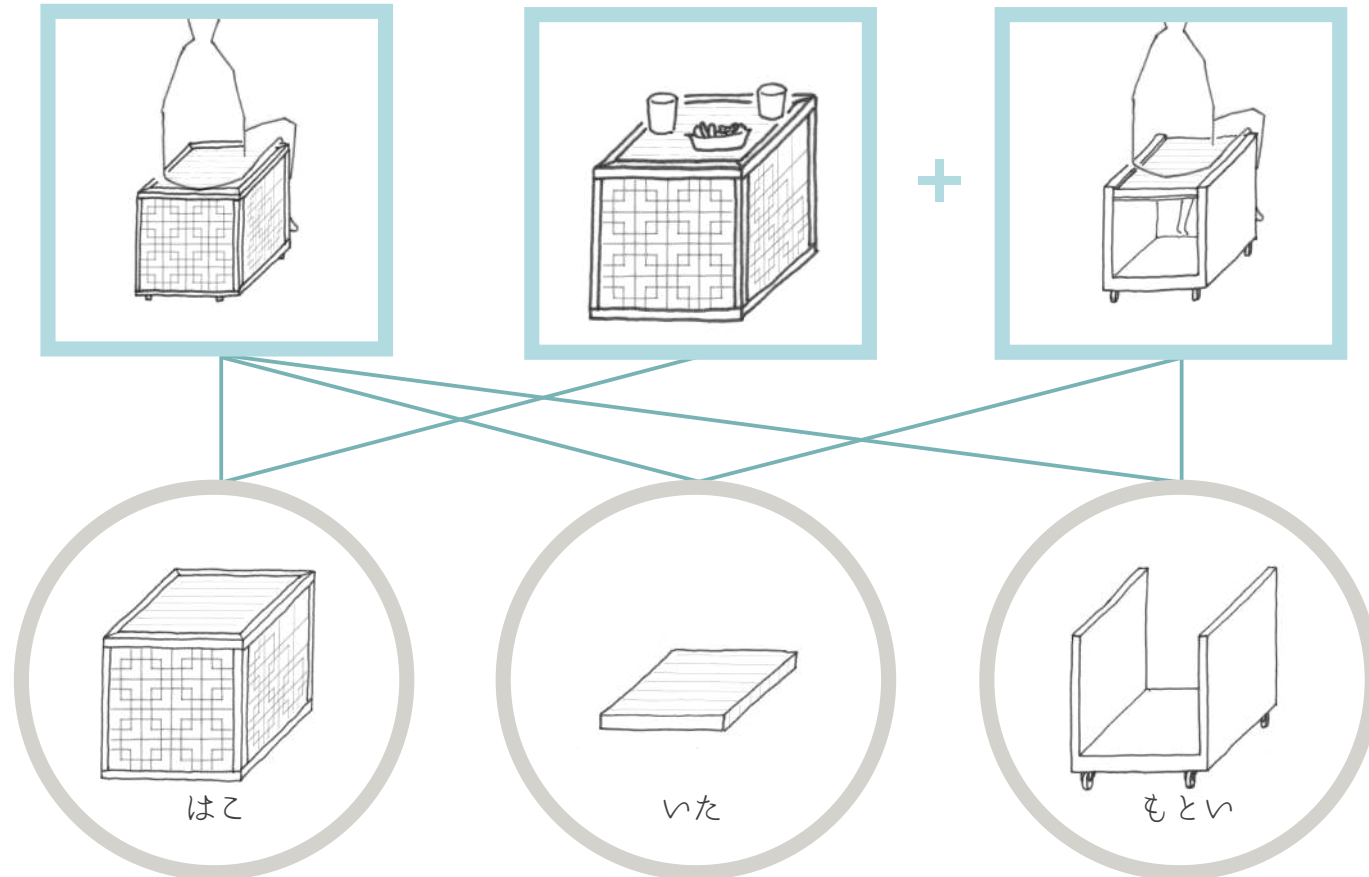
スツール 1

好きな場所に移動させて、それぞれの居場所を作る

サイドテーブル

はこを外して椅子とテーブルに分けることができる。テーブルに荷物や飲み物などを置いてみんなで集まれる。

スツール B



災害時

あかり

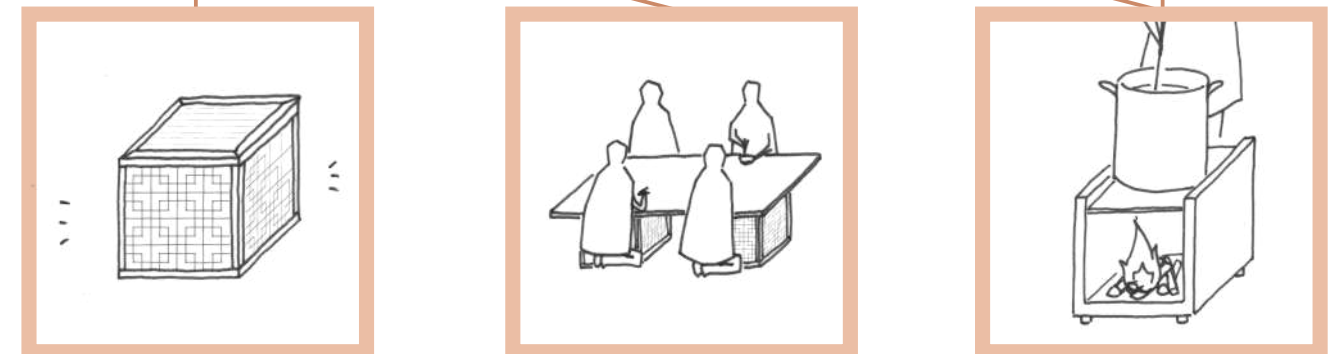
中に光源を置いてあかりになる。組子の模様が部屋全体を彩り、被災者を元気づける。

大テーブル

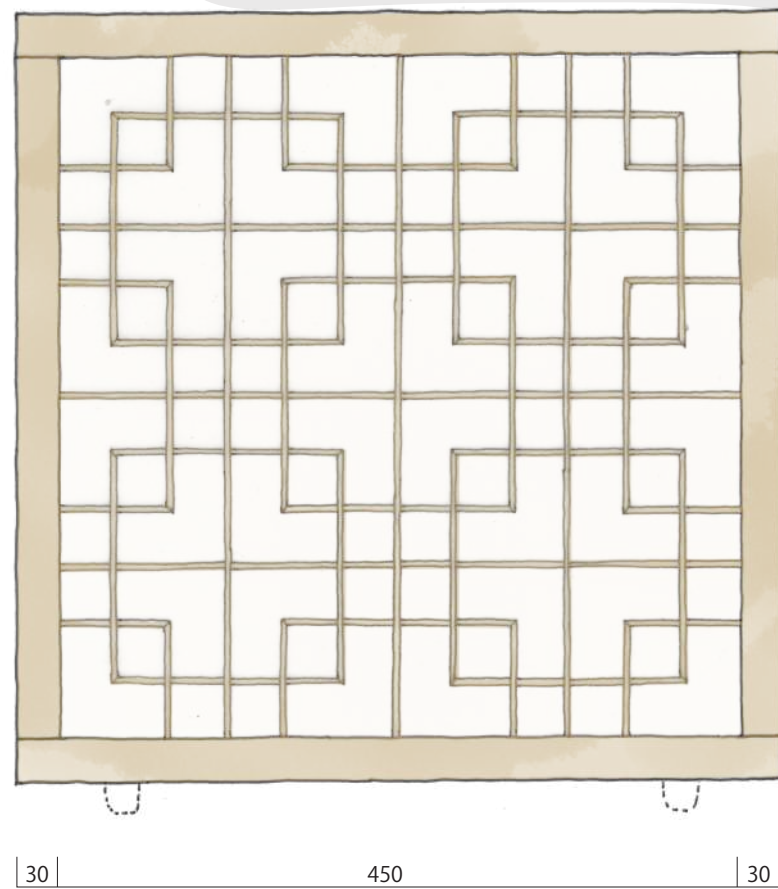
2つ以上のはこを並べ、大きな合板を載せることで大きなテーブルになる。

かまど

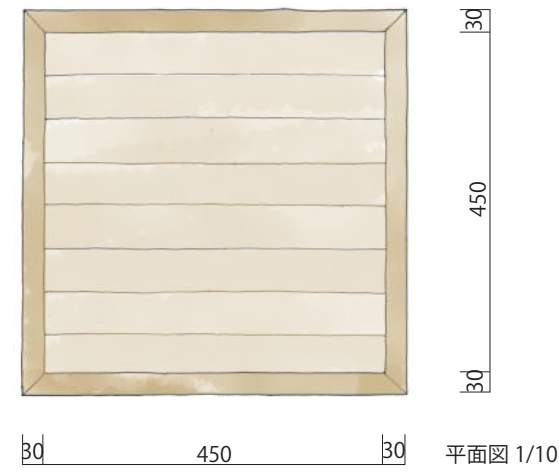
中で火を焚いて炊き出しを行う。スギは燃えやすく、燃料になる。



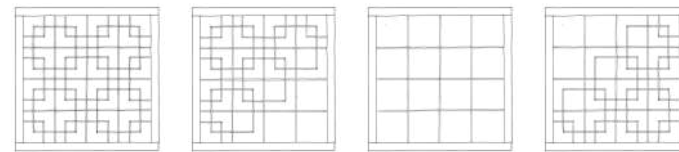
1 はこ



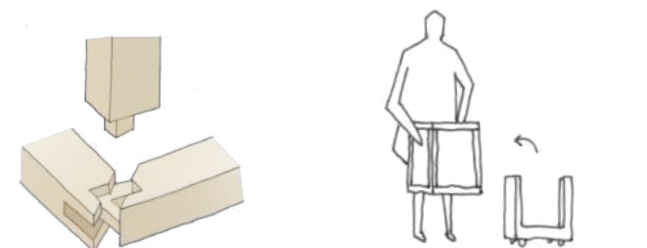
立面図 1/5



平面図 1/10

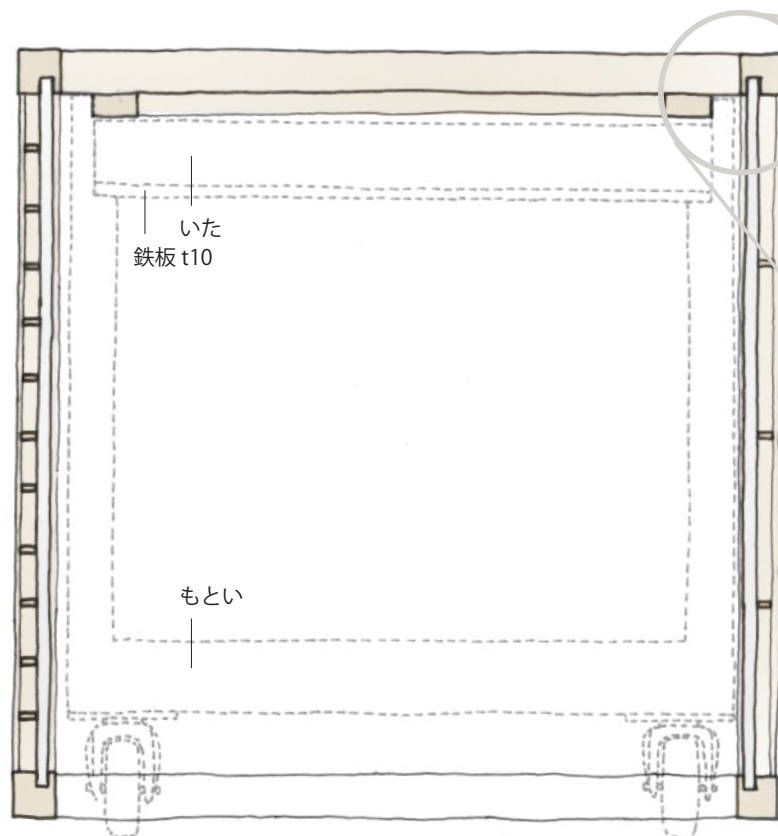


組子の模様は側面 4 面にあり、旧越家住宅の建具を参考にしている。1 面ずつ模様に変化をつけてメリハリを持たせた。組子は縦勝ちになっている。

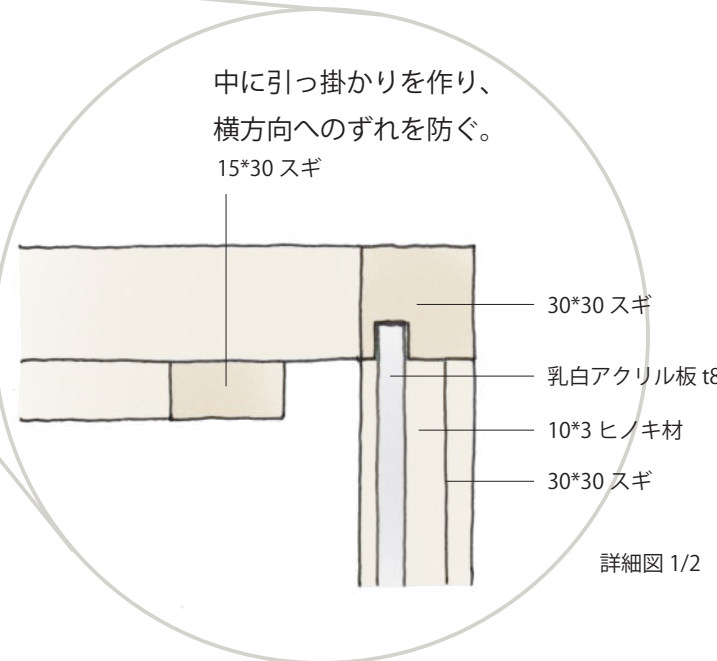


留型 3 枚継ぎ

外側の組子のカバーを持ち上げて取り外せる



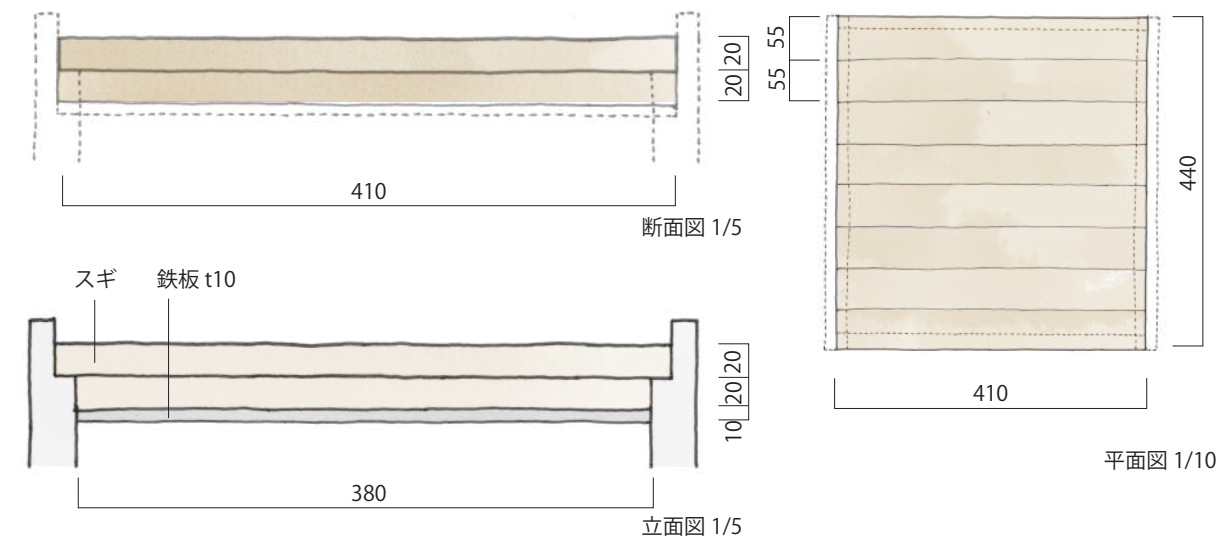
断面図 1/5



詳細図 1/2

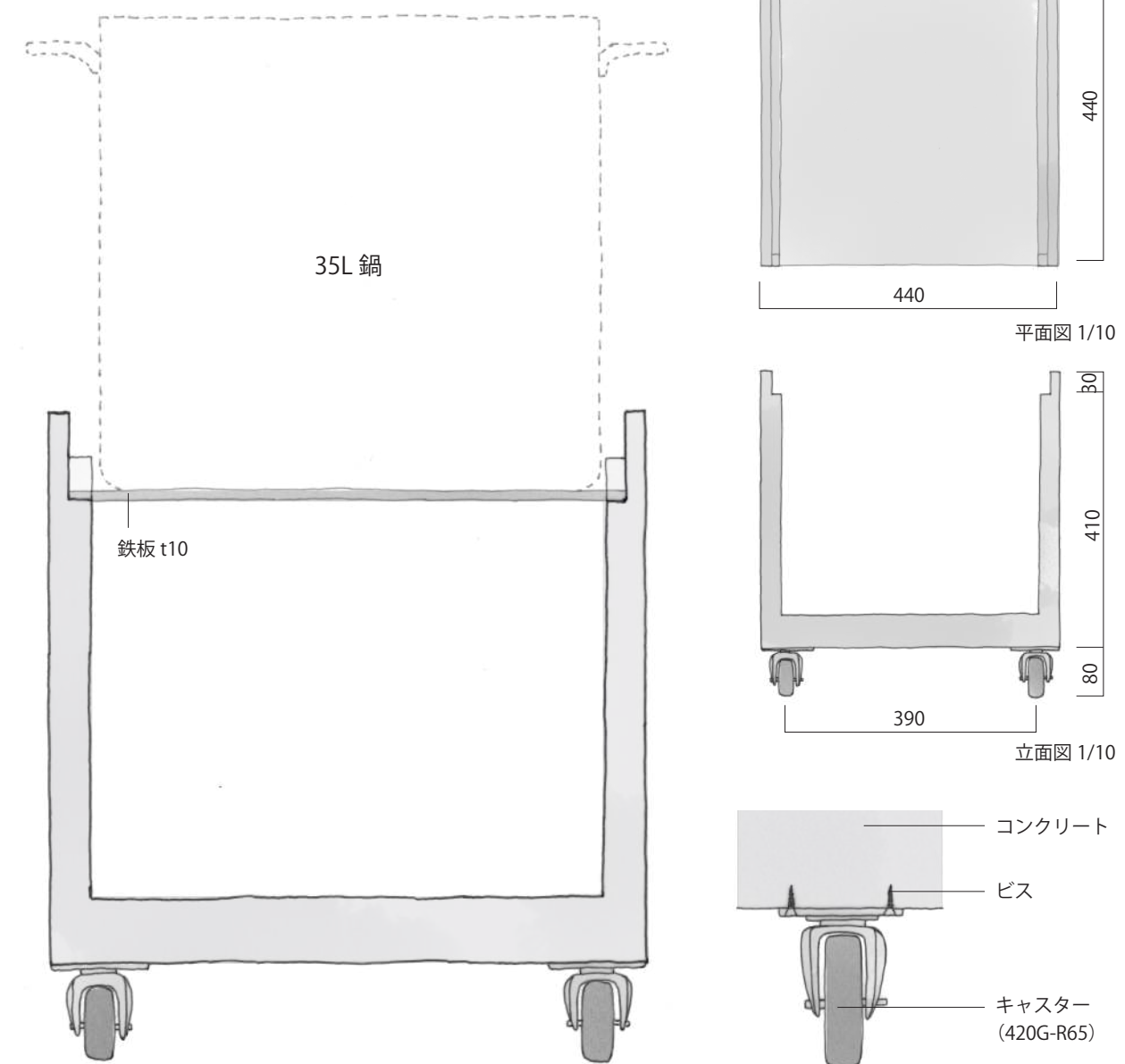
キャスター 1 つあたりの耐荷重は 40kg で 4 つついている。本体は約 80kg で 80kg までの人に耐えることができる。

2 いた



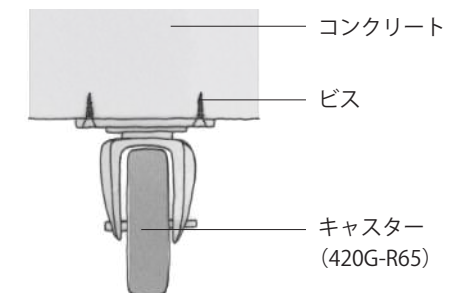
2 種類の断面の木材によって構成されており、鉄板の上に並べてある。普段は座面となり、外すと燃料として利用できる。短い周期で新しいものに交換する。

3 もとい



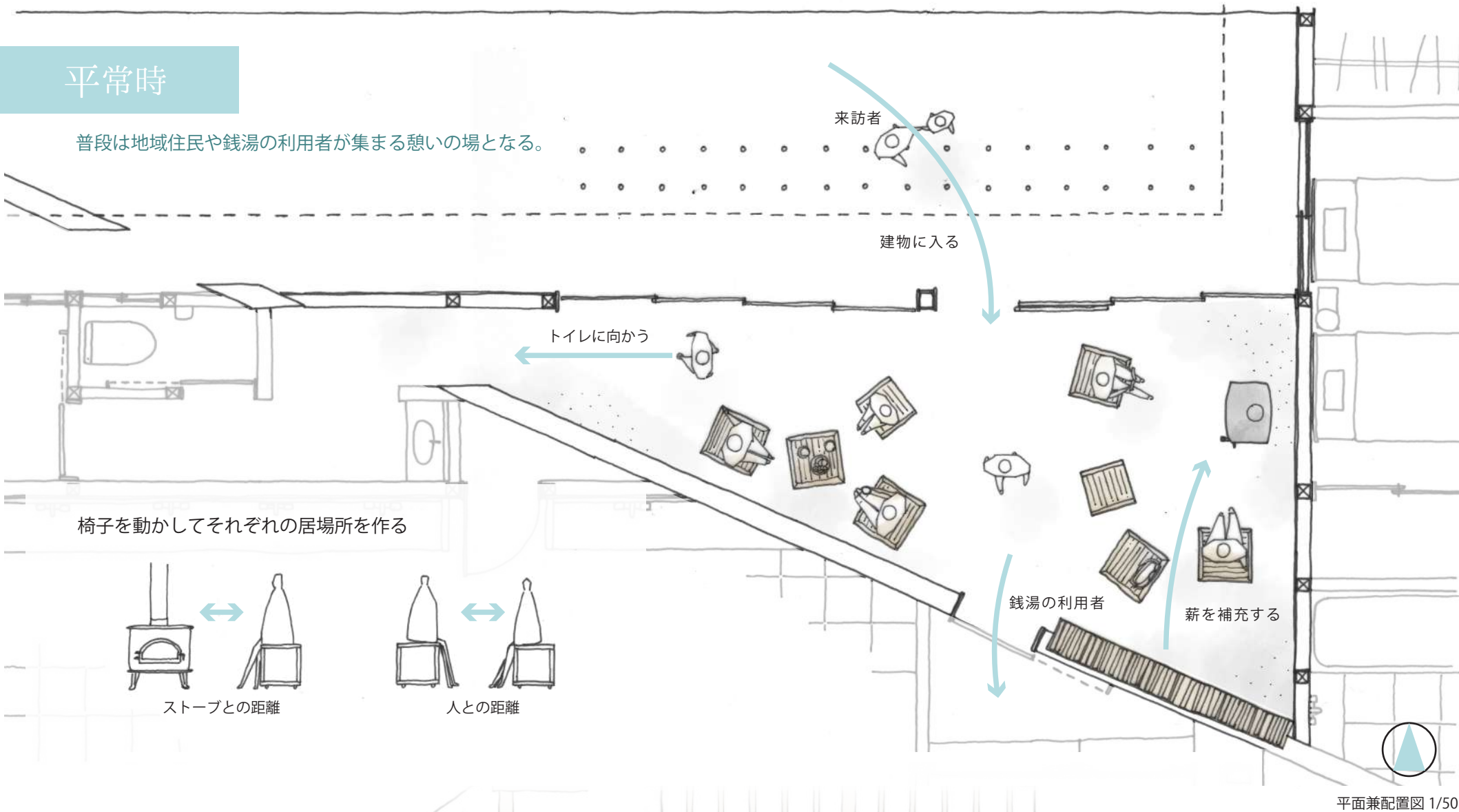
立面図 1/5

キャスター部分詳細図

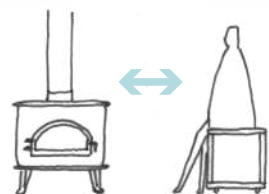


平常時

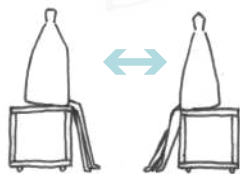
普段は地域住民や銭湯の利用者が集まる憩いの場となる。



椅子を動かしてそれぞれの居場所を作る



ストーブとの距離



人との距離

仕上げ

壁：コンクリート打放し

屋根：既存

軸組：既存

床：コンクリート

RCの壁と既存の木材によって、新しいものと古いものが対比される

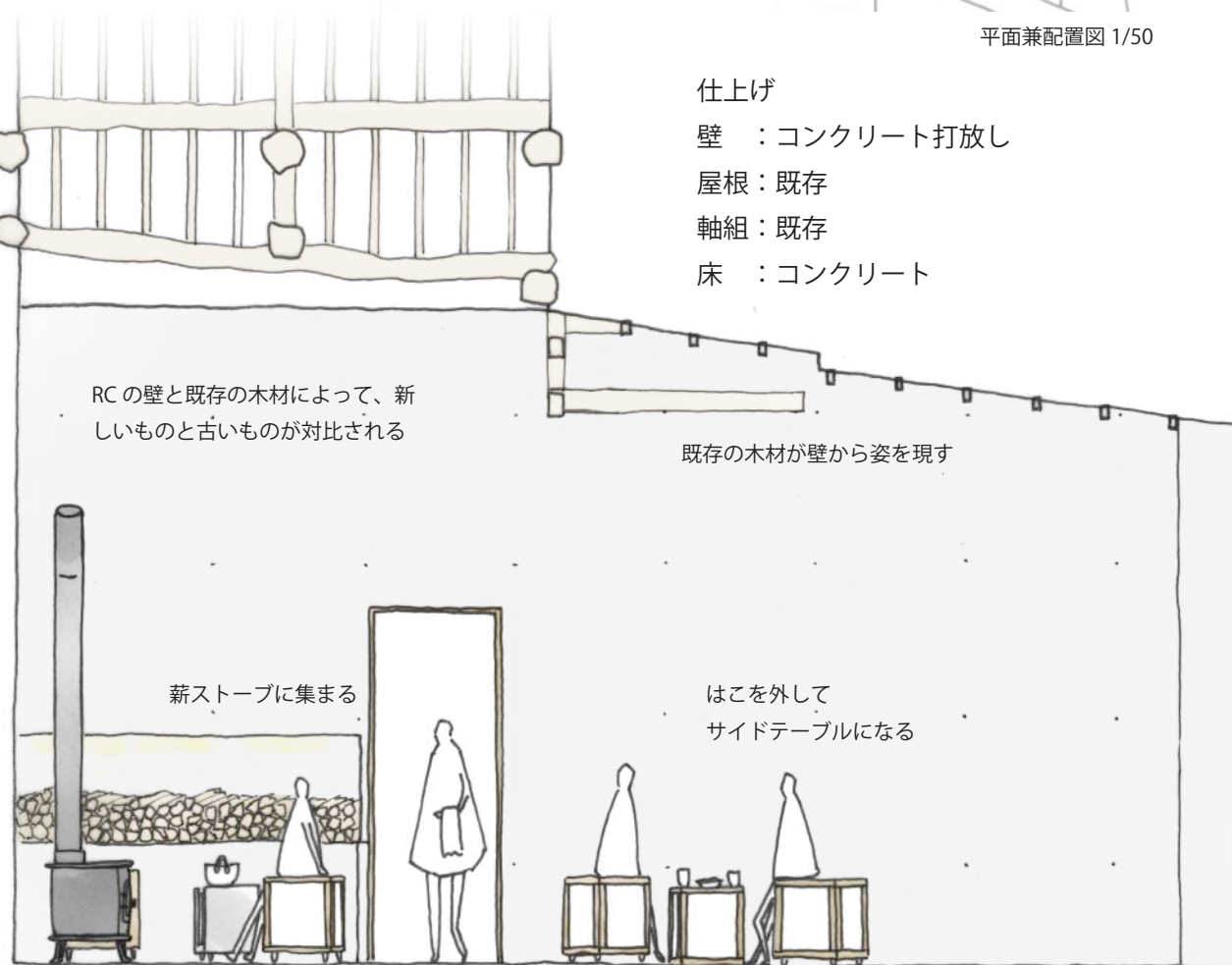
既存の木材が壁から姿を現す

上部は既存の軸組を表に出し、視線の抜けができる

庭への視線



展開図 1/50



薪ストーブに集まる

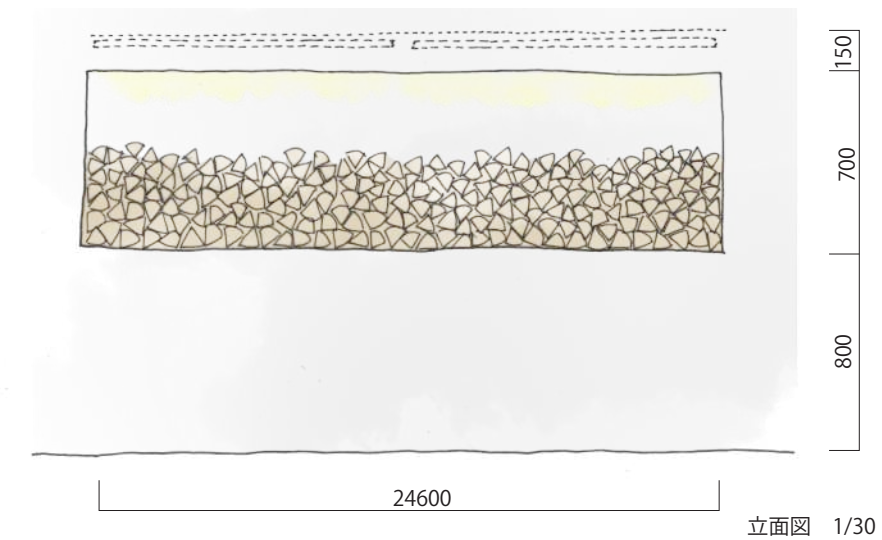
はこを外して
サイドテーブルになる

展開図 1/50

1 薪の収納

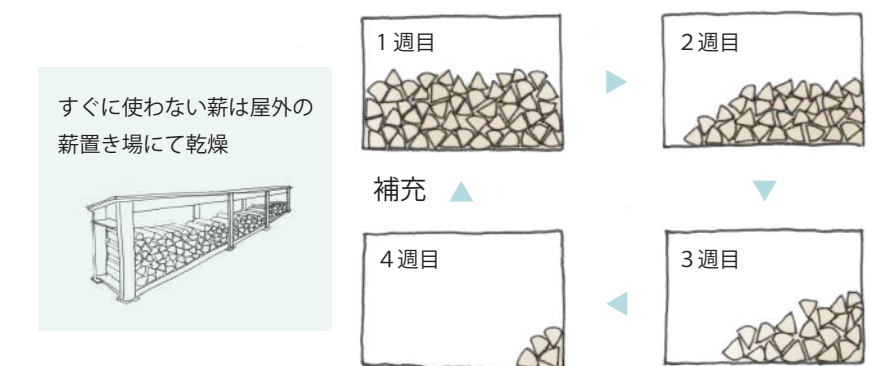
壁に窪みを作って薪を収納できる。

資材置き場でありながらディスプレイとして見せる。



外であらかじめ乾燥させておいた薪を約1ヶ月分保管する。

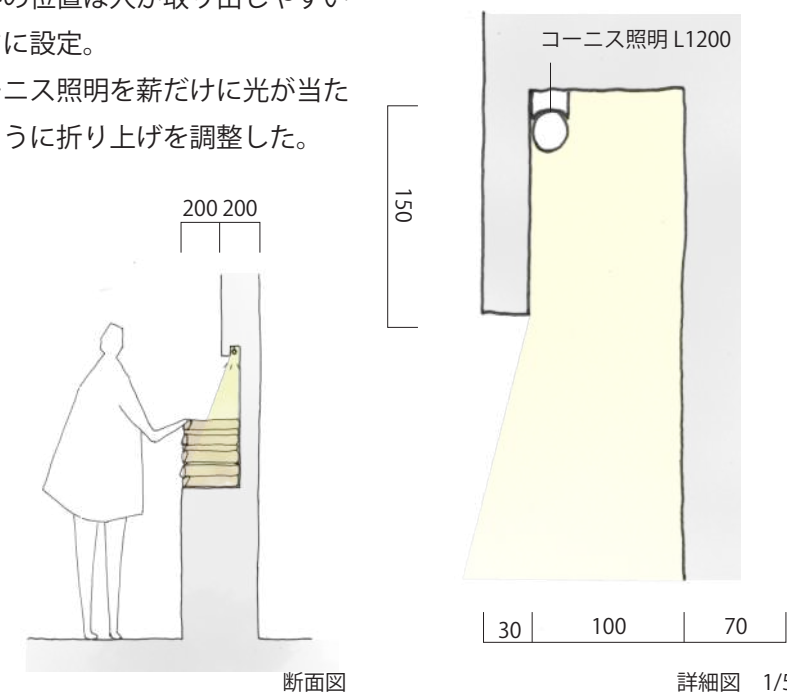
日に日に減っていく薪の量を見て月の経過を感じられるアナログなカレンダーになる。



1日に8時間で20本消費として、約1ヶ月分(600本)の収納が可能

窪みの位置は人が取り出しやすい
高さに設定。

コーニス照明を薪だけに光が当た
るように折り上げを調整した。



災害時

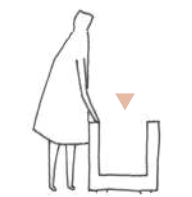
緊急時には炊き出しや避難所に行かない地域住民が集まる空間になる

蔵から物資を運ぶ

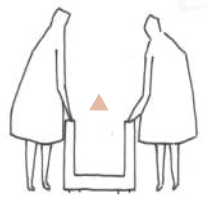
切った食材や火を運ぶ

食事を取る

車輪どめを使って固定する



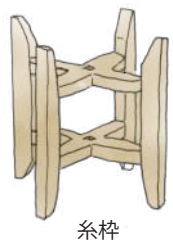
転がして穴に入れる



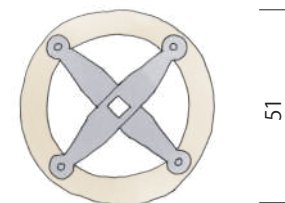
2人で持ち上げて外す

3 車輪どめカバー

もといのキャスターは穴に入れて固定させる。キャスターを入れる穴は普段は閉じられている。鉄とケヤキで構成しており、糸枠が糸を巻き取る姿をイメージして取り入れた。



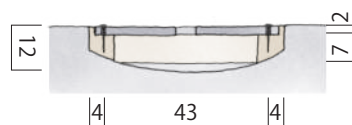
糸枠



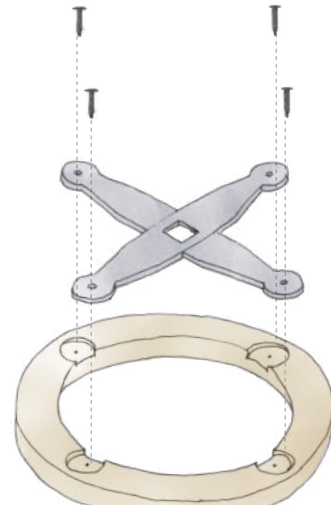
平面図 1/2



立面図 1/2



断面図 1/2



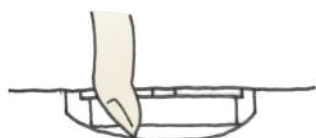
釘 (羽目板)

鉄 (鋳造)

ケヤキ

上下・左右がなく見る方向を問わない

ポイント



取り外せる

指の引っ掛けりを作る



水に浮かない

木に金属を組み合わせる

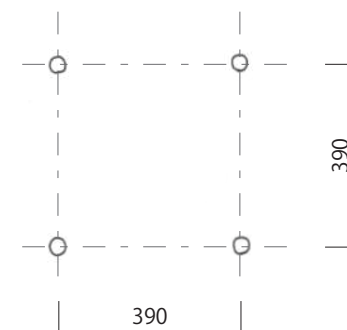


ゴミが入っても大丈夫

下部に空洞を作る

4 車輪どめ

キャスターが入る穴は390*390のグリッド状に2×16個配置しており、時と場合に応じてかまどを自由に配置することができる。



断面図 1/3

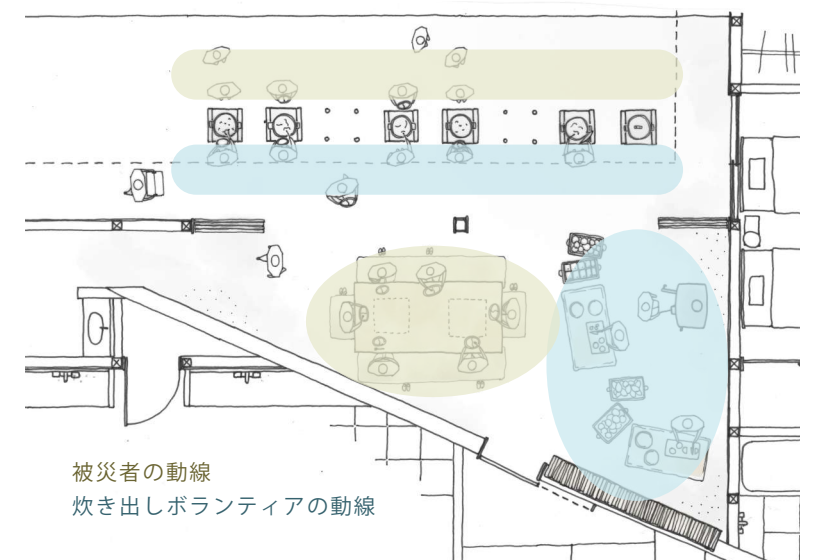
メニューを3品に増やしたり



人数に合わせて炊き出しの量を縮小する



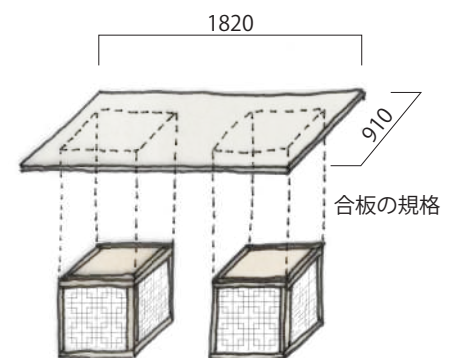
1 動線計画



被災者の動線
炊き出しボランティアの動線

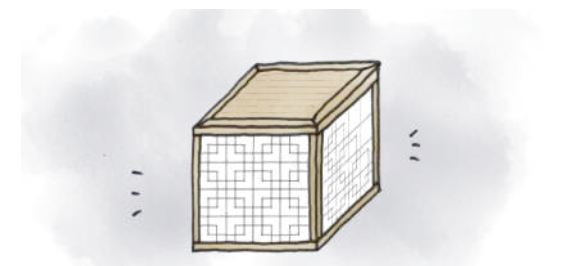
2 大テーブル

組子カバーに合板を載せて大きなテーブルとして利用できる。8人程度で机を囲むことができる。



5 あかり

中に光源を入れてあかりになる。スマホや懐中電灯などの直接的な光を柔らかくするとともに、光が被災者を元気づける。



6 炊き出しのメニュー例



カレーライス



ご飯と豚汁

35Lの鍋2つで120人分の調理が可能。
春木町の住民は約500人で、避難所に行く人を除くと、6台のかまどで360人分の食料を賄える。